

日程：2月20日～21日

場所：台北 Hyatt、台湾

参加にあたっての個人的な目的

1. アジアにおけるインターネットの現状を ” ユーザの立場 ” と ” 運用者の立場 ” から把握
2. アジアにおけるインターネット業界の人たちとのネットワークを確立

実際に参加したセッションの内容

- o Internet policy
- o International Domain Name
- o cyber sex
- o on-line game
- o on-line community
- o digital divide
- o women's online university
- etc

所感

1. アジア次世代との交流ができ、個人的に良い経験だった。どちらかと言うとインターネットを使うユーザの立場からの議論が多かった。
2. 興味の異なる人々の集まりである点が良くも悪くも影響した。多様な観点からの議論ができる一方で方向性がばらばらでまとまりにくかったように思う。
3. トピックスの多様性が逆にまとまりを難しくしている。また内容によっては、2時間弱でまとめるのは困難。(例えばデジタル・デバイド)
4. Asia Pacific 地域といっても、実際には韓国、日本、台湾、中国が中心。発展途上国からの参加は困難。
5. 目的の明確化
 - 国際交流なのか？
 - ビジネス的観点を取り入れるのか？
 - 技術的観点到集中するのか？

というような印象を持ちました。課題は残るものの、さらに有意義な場に改善していけるポテンシャルは十分あるのではと感じました。

改善のための提案

1. 構成のバランス
社会的なもの、技術的なものを分けるのではなくむしろ一緒にした形でセッションを組み立てる。
2. 時間配分
大きなテーマに関しては、事前に資料を配布するなどして一定時間内で効率よく議論ができるように準備を行う。
3. チュートリアルが続行
突然多くの技術的テーマを議論対象として組み込むのは難しいので、チュートリアルという形で継続させるのが望ましい。可能であれば増やす。
4. キャンプごとの一貫性
一回ごとのキャンプを断続的に行うのではなく、連続的なテーマ・つながりを持たせる。Evaluation、アンケート等。
5. 広報活動
既ネットワークを利用した団体、企業、発展途上国等に対する宣伝活動を行う。

個人的に掲げた当初の目的については、ネットワークは確立できた一方で、プログラムを通してインターネットサービスの現状の把握というレベルの議論まで発展させることはできませんでした。またプログラムを通して、各国でのインターネットの使われ方の多様性や可能性に触れることができました。今後は今回感じた問題点、改善方法などをフィードバックしていこうと思います。

以上